

# 春季カンキツ園でのクワゴマダラヒトリに対するジアミド系薬剤の防除

## 効果が不安定な事例

○井上一・坂田寛樹

JAながみね しもつ営農生活センター

ジアミド系薬剤はチョウ目害虫に対して卓越した防除効果があり、各種農作物に広く使用されている。カンキツ類においても、近年、適用拡大され、JAの防除暦に採用されている。しかし、2017年4月中旬に「ケムシ（クワゴマダラヒトリ）にシアントラニリプロール水和剤（商品名：エクシレルSE）が効いていない」と農家からの問合せがあった。JA担当者が出向いて調べたところ、散布した2haの園すべてで効果がなかったことを確認した。その後、2回にわたって他のジアミド系薬剤を使用したが見られなかった。防除体系は4月上旬にボルドー液（商品名：ICボルドー）40倍+エクシレル5,000倍、4月中旬にフルベンジアミド水和剤（商品名：フェニックス顆粒水和剤）4,000倍、4月下旬～5月上旬にフェニックス4,000倍である。当該園では新梢や蕾が食害され、豊作園が不作園となる様相であった。なお、本園ではその後5月中旬にフェンプロパトリン乳剤（商品名：ロディー乳剤）が散布され、高い殺虫効果が得られた。

カンキツでクワゴマダラヒトリが食害する部分は新葉である。しかし、春先は新葉数が少なく、スプリンクラー散布による薬液付着が不十分であったこと、散布後に新梢が伸長した部位には有効成分が付着していないこと、さらにボルドー液との混用で効果が低減したことなどが、効果が不十分であった原因ではないかと考えた。そこで、①本種とアゲハ類幼虫に対する効果確認試験、②他系統剤による防除効果試験(12剤)、③ICボルドー混用時における薬剤残効試験を実施した。

その結果、①ジアミド系薬剤はアゲハ幼虫には接触毒や食害による効果があるが、刺毛の多いクワゴマダラヒトリに対しては食害した場合のみの効果であった。この場合の本剤の殺虫効果は優れていた。②本種に対して、合ピレ剤や有機リン剤などが有効であった、③ボルドーとの混用では明らかに残効が短くなった。

クワゴマダラヒトリに対するジアミド系薬剤の効果は、食害する部分が多い落葉果樹や野菜類では優れている。しかし、カンキツ類では食害する新梢部分が少ないために薬液の付着むらを生じやすく、さらに新梢が急激に伸長して薬液が付着していない部分が存在する春先の使用には適さないと考えられる。カンキツ類は隔年結果性が大きく、さらに樹による新梢量やそれらの伸長速度に違いがあるため、散布のタイミングが重要であると思われる。今回得られた知見を今後の効果的なジアミド系薬剤の利用につなげていきたい。

Cases of unstable control of Mulberry tiger moth *Spilosoma imparilis* by diamide insecticides in spring citrus orchard at Nagamine district in Wakayama Pref.

Hajime Inoue・Hiroki Sakata

Shimotsu branch of agricultural business and life, JA Nagamine